

「風力発電 - 知られざる恐怖 - 」( 5 )

「風車問題伊豆ネットワーク」 S

本文は前号 4 の「風車に起因する超低周波・低周波騒音健康被害」の続きとしてまとめさせていただきました。項目番号などはそのように付けてあります。

5 ) 風車病 - 被害者の声 -

風車病とは、愛媛県伊方町の被害者たちが名づけたものである。被害者たちは風車病の苦しみを「地獄のようだ。」ともいっている。また、愛知県豊橋市の細谷地区でも 1 基の風車によって 2 5 名もの被害者が出ている。ここでは「生殺し」という言葉で苦しみを訴えていた。前号で報告したように、東伊豆町の被害者からも同じような苦痛の声が上げられている。

以下、東伊豆町天目の一部被害者の声を聞き取りにより、さらに詳しく記しておく。

- 1、K さん(女性) 10号機が回り始めて調子が悪い。グォン グォン(風きり音)が気になる。視力が落ちた。耳の下のリンパ腺が腫れた。手がしびれる、立ち眩みがする。頭の一部が針で刺されるような痛みを感じる。耳鳴りがする。耳が痛い、金属音が耳の中である。テレビの声も聞こえない事がある。医書による「顎関節症」の症状、口の動きが悪い、口が開きづらいことがある。最近では腰に痛みが起きることがある。だんだん弱ってきた感じ。耳鼻科を紹介してもらい通院したい。
- 2、K さん(男性) 10号機(自宅から 5 7 0 m)が回り始めて左耳から右耳へ音が抜ける感じ。耳鳴り(セミが鳴いている感じがする)家を離れたとき肩こりは直るがセミの鳴き声は消えない。一昨年肩こり、耳鳴り 脳梗塞で入院、現在、月 1 回リハビリ通い、3 月 1 9 日から両鼻から鼻血が出始めた。1 5 日から風車が廻り始めたら、音はふつう上の方から聞こえるが、寝ころんで枕をつけると床の方(下)から聞こえてくる。障子が揺れる。散歩で(天気の日には家の周辺 2 キロ)風車の風道にくと腰が痛くなり足が前に出にくくなる。風車が目に入るとあたりの枯れ木に桜のようなピンクの花が満開に見える。歩いて風車が見えなくなると花のようなものは消えて見えなくなる。
- 3、K O さん(女性) 音は南の方(海側)から聞こえる。毎日の症状はメモに。ストレスがたまると手が震えてコーヒカップが片手で持てない。夜我慢できないときには事業者へ電話して騒音の測定をしてもらっている。集中力がなくなって細

かい文字が読めない。疲れて仕方がない。70歳近くまで薬は一切飲んだことはないが、最近眠れないので睡眠剤を飲んでいる。寝室は窓際（山側＝風車側）だったが今は反対の部屋で寝ている。ひどいときはリンパ腺が痛くなり指が震えてくる（日によって痛いところが違い今日は小指が何かにぶつけたときのような痛み）家を離れて畑に行くと気分がずっと良くなる（気のせいではない）朝起きると、肩がバリバリに張っていて主人にサロンパスを肩、首の後ろに張ってもらう。

- 4、K Oさん（男性） 心筋梗塞で肺の切除手術をしたので風車が回ると血圧が上がりがどうしようもない。虫の声のようなものが聞こえるときがある。6号機、8号機、10号機など家の後ろが回るとものすごい音が出て、睡眠剤を飲んでいなかった頃、妻は我慢ができず犬を連れて、役場庁舎の駐車場（屋根付き2階建て）で一晩明かしたことがある。
- 5、Tさん（女性） 体の中、奥の奥で痛みを感じるような感じ。肩こり、耳の後ろあたりに、飛行機に乗った時の気圧の変化のようなものを感じる。光線が頭を針で突き刺すような、突き抜けていくような感じがするときがある。前回の（事故前の）試運転時に円形脱毛症になり、大分小さくはなったが全治していない。犬の散歩中に吐き気がするときがある。寝るときは耳栓（科学の耳栓という商標）時にはヘッドフォンをして睡眠はとれている。主人が分譲地内でマラソンをしていて鼻血を出したことがある。低周波音が来たとき？飛行機の低いエンジン音のような音が聞こえて背中に痛みが出る。
- 6、Kさん（男性） 家では音が聞こえないときは先ほどの抑圧感を感じないが、ここへ来たときすぐに（音は聞こえないが）気分がおかしい（この家には低周波音がたまりやすいのか？）
- 7、Hさん（女性） 去年の試運転で音がうるさく家の中の防音対策工事をした。至近風車500mくらい。背筋、腰の痛さ、朝起きたとき足が動かないときがある。お腹が痛かったときもある。便秘が始まる。喉から血が出る（痰ではない）、鼻血が固まった異物（鼻くそ？）と一緒に出てくる。薬に対するアレルギー症で薬は一切飲んで居ない（飲めない）ので、風車がうるさいときには夜中でも外へ出て風車に向かって怒鳴ると少し発散する。犬を外へ出すと暴れ出して買い飼い犬でも手がつけられない。（音ノイローゼ？ストレスがたまっている？）近所の秋田犬は風車が回り始めてから犬小屋で寝ないで小屋の外で寝ている。朝起床時歩き出しの一步が痛い（つらい）ので階段を後ろ向きに降りているが、膝部分に血が滲んでいる（痛みはない）。最近では体の芯が痛いような感じですが。
- 8、Yさん（女性） 今回の試運転で、家の中では音は聞こえないが、朝起きると肩が張り、時には吐き気がするときがある。胃が痛い。頭が痛いので脳外科でレントゲンを撮ったが異常なし。そのとき血圧は普段よりは上がる。夜中に目覚めて（2時～3時）後は眠れない。睡眠剤は癖になるので最近止めた。睡眠不足が続き主

人と口論になるので、東京に実家へ1週間出掛けたら、夜は熟睡でき快適だった。熱川に帰宅したら早速夜中に目が覚め朝まで眠れなかった。足下がふらつくので脳外科へ行ったが脳には異常なしといわれ耳鼻科の診察を勧められた。

#### 9、Hさん(女性)

苦しみに耐えられずに自費でアパートを借り、夜は避難している。天目風車10基が家のほうに向かって回っている。音が異常で起きて歩けなくなった。動けば少し楽になるが体が硬直したようになり、手足はしばらく動かない。食事の支度をするのがようやくで、掃除などは出来ない。10基回り始めた時このままでは死ぬのではないかと思った。頭が重く耳の後ろが腫れて痛く、視野が狭くなり目の前がよく見えなくなった。家を離れると症状はなくなる。耳の痛みが逆になり右から左になった。膝にも痛みが出て歩行困難のようになった。

風車を含めて低周波音による健康被害者の尋常ならざる苦しみは、被害を経験していないわたしたちには、活字によってはなかなか感じとれないところがある。まして「頭痛、耳痛、めまい、吐き気、」など一般症状で伝え聞いても苦しみの状態は被害経験のない者には伝わり難い。せめてわたしたちは、心と感受性を研ぎ澄ませて被害者の声に耳を傾ける必要がある。

風車超低周波・低周波騒音による健康被害者の場合は、恒常的な睡眠不足状態のなかで常時、複数の名状しがたい苦痛の症状に心身をさいなまれている。前記の聞き書きには耐えがたい苦痛の叫びが書きに込められている。被害者は苦悶をもって、その苦しみを「地獄のようだ」といい「生殺し」と表現しているのだ。助けを求めつつ終わることのない苦痛の極限に耐えさせられている。

しかし天目では、わずか数ヶ月の風車運転により、苦しみに耐えられずに被害居住地域を去っていった被害者がすでに5世帯、10人以上にのぼっている。さらにまた、多くの被害者が風車難民化しつつある。(つづく)